



12月2日 「ホームタウン野々市」に出演中の栗市長（サテライトスタジオにて）

ごあいさつ

令和2年12月7日

12月に入り、今年も残すところ、あとわずかとなりました。

振り返りますと、新型コロナウイルス感染症対策に明け暮れた一年であったと思います。この「ごあいさつ」でも、毎月のように、新型コロナウイルスに関する内容を発信してきましたが、なるべく皆さんの気持ちが前向きになるように努めてきました。

来年は、明るいニュースをたくさんお届けできる年であることを心から祈っております。

11月20日、姉妹都市であります、ニュージーランド・ギズボーン市のストルス市長とリモート会議でお話させていただきました。

今年は姉妹都市提携30周年ということで、交流会など、さまざまな記念事業も予定されていましたが、コロナ禍により中止となってしまいました。画面越しではありますが、ストルス市長や、これまでに交流のあった懐かしい皆さんにもお会いでき、お互いの近況を話すことができました。

市制施行10周年を迎える来年には、ぜひ、本市にお越しいただける状況になっていることを願っております。

11月25日には、市内の中学2年生を対象に立志式を行いました。毎年、式辞の中でどのようなことを伝えようかと、そのとき話題になっていることを引き合いに、あれこれ考えています。

今年は、やはりこれ、アニメ『鬼滅の刃』から、いくつかの言葉をお借りしました。映画やコミックで人気を博し、今や一大ブームとなった作品です。簡単に言えば鬼退治のストーリーなのですが、主人公の炭治郎（たんじろう）の家族や仲間を思いやる気持ちや、時には敵である鬼へのさまざまな思いも深く表現されており、「名言」とも思われるセリフに心が揺り動かされます。

中学生の皆さんに、どれほど伝えられたかわかりませんが、苦しいときこそ、精いっぱい自分自身を鼓舞して、自分が決めた「志」をいつも胸に抱いて、前向きな人生を歩んでいただきたいと思います。

私事ではありますが、今年は還暦を迎えた年でもありました。まだまだ先のことと思っていましたが、気が付くと、あっという間でした。

はたして年齢相応の人間になれているのか、という率直な感想を抱きながらも、これまで、ご高齢の皆さんに向け、「若々しい気持ちを持って」ということが自分自身にも向けられてくるのだと感じております。

「いつまでも人生の主演」と、市民の皆さんにそう思っただけにしたいと思いますように、私自身もその気持ちをいつまでも持ち続けていきたいと思っております。

まだまだ、新型コロナウイルス感染症への予断はできない状況にありますが、来る年に希望を馳せて、少し早いですが、良い年をお迎えください。